

プログラム 5月30日(土)

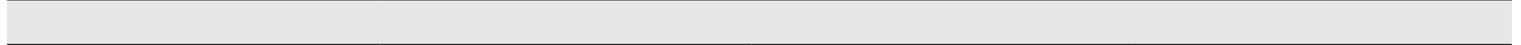
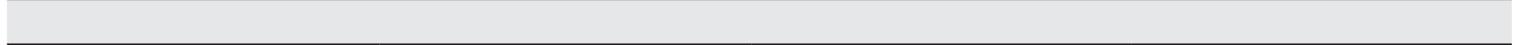
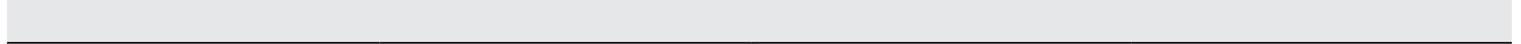
会場	野依記念学術交流館			
	CH (カンファレンスホール)	1A	1B	2/3A
座長		吉野まり子	秋庭史典	野沢公子
10:30-11:00		東英児・佐藤博昭 / 中東映像ワークショップの可能性—国際交流からみる映像教育	村上泰介 / 子ども特有の時間表現の映像化を支援する環境構築の可能性についての研究	中村聡史 / 「ブロックバスター」としての「メロドラマ」—『タイタニック』に関する一考察
11:10-11:40		杉田このみ / 中学生による地域コンテンツの可能性—松山市による中学生映像制作事業の取り組みについて	織田祐宏 / 写真教育(実習)に於けるデジタルカメラの有効性	飯岡詩朗 / 「家庭」にはもう明日はない—ダグラス・サーク『いつも明日がある』における知らなすぎた男
11:50-12:20		中垣恒太郎 / 「リアリティTV」時代におけるドキュメンタリー表現の変容—セルフ・カメラによるアイデンティティ探求とモキュメンタリーによる虚構の創出	伏見清香 / 写真を使用した能動性を高める参加型の作品鑑賞支援	山下史朗 / ウディ・アレンが描く個人と共同体の関係性の考察
LUNCH				
13:30-15:20	メアリー・アン・ドーン氏特別講演「クローズアップ——映画における不動性とスケール」			
CAFE				
15:50-17:30	ディスカッション			
CAFE				
18:00-20:00	懇親会			

プログラム 5月31日(日)

会場	野依記念学術交流館			
	CH (カンファレンスホール)	1A	1B	2/3A
座長	幸村真佐男	秋庭史典	水島和則	溝渕久美子
10:30-11:00	パフォーマンス: 原将人 / マテリアル & メモリーズ 〜手と眼と映画と光のコスモロジー〜	尾鼻崇 / ファミリーコンピュータにおける「ゲームサウンド」の諸相	川崎公平 / 黒沢清における「並置」と「交代」—『ドッベルゲンガー』を中心に	馬場広信 / アトム・エゴヤン監督 Auroras の背景—ビデオ・インスタレーションが開く「証言」の語法
11:10-11:40		竹内正人 / 映像教育: 映画の音を設計する	伊集院敬行 / 中井正一の機械美学における映画とジャック・ラカンの精神分析理論	楊氷 / アン・リーの映画におけるシンボル—『ラスト・コーション』、『ブロックバック・マウンテン』を中心に
11:50-12:20	作品口頭発表: 原将人 / マテリアル & メモリーズ 〜手と眼と映画と光のコスモロジー〜	栗原詩子 / 映像音響詩 (Audio visuelles Gedicht) のジャンルの特性—中村滋延の3つの作品を中心に	大村憲右 / メタ映画、スクリーン、力動的イメージ—現代ハリウッド映画『デジャヴ』分析	大城俊郎 / 物語と方法—消滅する作者
LUNCH				
座長		曾我部哲也	大泉和文	和田伸一郎
13:30-14:00	パネル / 大学・大学院における映像教育、大森康宏(代表・ディスカッサント)、宮下十有 / 大学授業での映像作品制作の事例とその交流、鈴木岳海 / 感覚横断的映像教育手法の開発、村尾静二 / 大学院教育における学術映像の役割	齋藤直樹 / 時間軸アノテーションを用いた映像学集合知形成の提案	八尾里絵子 / パブリックスペースにおける体験型映像とコミュニケーション	小林杏 / 「死後写真」を考える—メキシコ・死児写真の事例から
14:10-14:40		百束朋浩 / File-based workflow における映像制作支援のための動画像評価手法の検討	北市記子 / 体感する映像—表現形式としてのメディア・インスタレーション	大石和久 / 持続と瞬間—写真とベルクソン哲学
15:00-15:50	第36回通常総会			
16:00-17:50	シンポジウム「動画サイトは「教育の場」となるか?」			



		物質科学研究館	
2/3B	4	L (講演室)	CL (ケミストリーラウンジ)
林緑子	洞ヶ瀬真人	宇井朗浩	伏木啓
溝淵久美子 / 「境界」からの問いかけ—『モンキー・ビジネス』におけるチンパンジー表象をめぐって	大久保遼 / 明治期の幻燈会における知覚統御の技法—教育幻燈会と日清戦争幻燈会をめぐって		伊藤明倫・水野勝仁 / 「あいまいさ」の境界
横田正夫 / 池田宏の「空飛ぶゆうれい船」についての心理学的検討	渡邊大輔 / 大正末期の社会教育映画における物語とイメージ分析—民衆娯楽論との関連から	黒岩俊哉 / resonance #2	河原崎貴光 / capture
吉田雅彦 / 「レイヤード・リアリティ」について—視聴環境の変化と自主制作アニメーションを起点に	大矢敦子 / 映画興行における実演と連鎖劇—浅草 遊楽館の事例を中心に	上條慎太郎 / OUTPUTS DEMOREEL 2009 VIDEO AND DANCE	熊谷武洋 / AKIYOSHI—胡蝶の夢—スチル写真を素材とした風景アニメーション映像



		物質科学研究館	
2/3B	4	L (講演室)	CL (ケミストリーラウンジ)
広瀬正浩	上田学	黒岩俊哉	上芝智裕
橋本淳 / 「黒澤時代劇」批評としての黒澤組脚本家作品—「残酷時代劇」との関連において	仁井田千絵 / 初期のミュージカル映画にみる娯楽形態の可能性	太田曜 / REFLEX / REFLECTION 16 mm film 映画作品の上映 反射する彫刻とスクリーン上に反射する光.	井上貢一 / Motion Cube 2009 3-Dimensional Visual Toy
桑原圭裕 / 宮崎駿論—東映時代劇流物語構成からの脱却	松谷容作 / 色のヴァイブレーション—初期映画における手彩色についての考察	末岡一郎 / MARCHING ON 非連続的な視線	李容旭 / 「リタニー・マイケル・ヴァイナーの追憶に—1」のために For [Litany-In Memory of Michael Vyner-1]
吉田馨 / 女性映画の三隅研次—三隅研次監督作品『婦系図』(1962年大映京都)を、マキノ正博作品、衣笠貞之助作品と比較して	森本純一郎 / 声の文化としての日本の映像—声優は話芸たりうるか	水由章 / 流れるように 紡ぐように映画フィルムでしか表現できない試み	風間正・大津はつね / Dé-Sign 20 La Matière de Mémoire (記憶のマチエール)

